

2026年8月24日

各 位

会 社 名 カルナバイオサイエンス株式会社
代表者名 代表取締役社長 吉野 公一郎
(コード番号：4572)
問合せ先 取締役経営管理本部長 山本 詠美
(TEL：078-302-7039)

テキサス大学MDアンダーソンがんセンターにおけるmonzosertibの医師主導治験が
ClinicalTrials.govに登録・公開

当社は、CDC7阻害剤monzosertib (AS-0141) を用いた再発・難治性急性骨髄性白血病 (AML) または高リスク骨髄異形成症候群 (MDS) 患者を対象とするフェーズ1b試験 (医師主導治験) の情報が、ClinicalTrials.govに登録・公開されたことをお知らせいたします。

2025年12月18日付「AMLを対象としたmonzosertib開発推進に向けたMOUを締結」にて公表しましたとおり、当社は米国テキサス大学MDアンダーソンがんセンターと協力し、同センターが主導するmonzosertib (AS-0141) のフェーズ1b試験 (医師主導治験) の開始に向けた準備を進めています。

今回のClinicalTrials.govへの登録・公開は、本フェーズ1b試験の開始に向けた準備が進展したことを示すものです。

【ClinicalTrials.gov登録情報】

ID：NCT07780565

Official Title：

Phase 1b Study of Monzosertib In Patients With Relapsed Or Refractory Acute Myeloid Leukemia Or High-Risk Myelodysplastic Syndrome

URL：<https://clinicaltrials.gov/study/NCT07780565>

以上

CDC7 阻害剤 monzosertib (AS-0141) について

monzosertib (AS-0141) は当社が創製した CDC7 キナーゼを選択的かつ強力に阻害する経口投与可能な医薬品候補化合物です。

CDC7 (cell division cycle 7) キナーゼは、DNA 複製開始を制御する重要な酵素です。細胞周期制御が異常となったがん細胞では、CDC7 活性の阻害により複製ストレスが誘導され、細胞死に至ることが知られています。一方で、正常細胞では細胞周期チェックポイント機構が維持されていることから、

CDC7 阻害の影響を受けにくいと考えられており、良好な忍容性を有する新たな治療薬となることが期待されています。

CDC7 は様々ながんで過剰発現していることが報告されており、CDC7 阻害によりにより DNA 複製ストレスが誘導され、がん細胞の増殖抑制や細胞死につながる新たな治療アプローチとして注目されています。さらに、非臨床試験において、monzosertib は DNA メチル基転移酵素 (DNMT) 阻害薬および BCL-2 阻害薬との併用により強力な抗腫瘍活性を示しており、既存治療に対する耐性克服や治療効果の向上につながる可能性が示唆されています。

カルナバイオサイエンスでは、高選択的 CDC7 阻害剤 monzosertib の創製に成功しており、急性骨髄性白血病 (AML) をはじめとする様々ながん種を対象として、革新的な治療薬の開発を進めています。